

明窓

きららとしょかん明徳館
図書館だより
第 90 号
発行 令和 7 年 3 月 21 日
秋田市立中央図書館明徳館
秋田市千秋明徳町 4 番 4 号
電話 018-832-9220

那波家文書について 古文書解読シリーズ三発刊に寄せて

那波家では、当主は代々三郎右衛門を襲名しており、伝承に拠れば、那波家は播磨兵庫県を領した豪族赤松氏の系統を引く武士であったが、祐恵(慶長元年没)の代に播州赤穂郡那波ノ浦(同県相生市)に住し、この地名にちなんで那波の名字を名乗り、商人となったという。その後3代宗恩(元和元年〜天和3年)の時に京都へ進出し、秋田藩の御用達を勤め、多額の金を融通していたとのことである。

だが、宝永5年(1708)の京都大火で破産し、那波家がそれまでの貸金の返済を願い出たものの、秋田藩では返還はできず、藩のすすめ秋田に移住したのが、宝永8年(1711)〜5代祐祥で、彼が秋田の初代となった。

その後、那波家は藩から酒造米調方御用、御燈油御用、御造俵御用、胡麻油絞御用、御蠟絞方御用、室箒方直役などの役職を与えられた。だが、これらの役職は本来藩の役人が担うべき役職であったので、「土農工商」という身分制社会の中での役職は、負担が大きかったものと考えられる。

ところで、「那波家文書」は昭和59年(1984)に、藩の御用関係文書は秋田市の公共財産として役立ててもらいたいとの那波家の御意向で、秋田市立中央図書館明徳館に寄贈された。年代的には明和6年(1769)から明治9年(1876)年まで、総点数は6,849点にもぼるといふ。

「御用関係文書」を那波家が保管していたのは、明治維新の際、佐竹

家から文書の保管を依頼されたからだという。今で言えば、「公文書」とも言っている「文書」の保管を依頼されたのは、御用間町人として誠実に役割を果たし、佐竹家から信頼されていたからだと思われる。

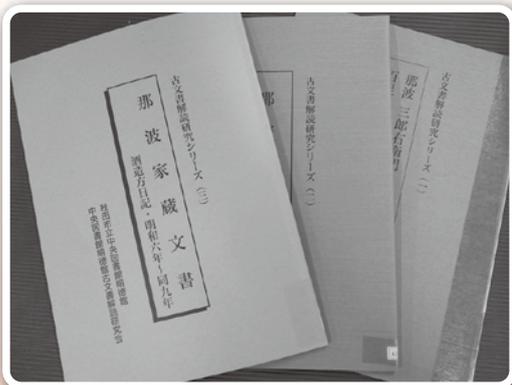
明徳館が所蔵する、酒造方の文書は1,500点ほど。「中央図書館明徳館古文書解読研究会」では、これまで那波家文書を43点翻刻し、その内、酒造関係は25点で、全体からすればわずかであるが、今回、翻刻・刊行した「酒造方日記」は、明和6年(1769)に、秋田藩が「酒米調方を設け、那波、中野屋、升屋を支配役に任じて、郡方を通さず領内酒造高の調査と酒役銀の徴収を行わせたこと」を、記した文書で、秋田藩の酒造政策を知る上で基本文書である。文書点数が多い「那波家文書」全部に目を通すことは難しいので、秋田藩の酒造研究の基本文書であることは間違いない。秋田藩の殖



産興業政策に関心を持つのであれば、那波家はこの後、「秋田藩絹方支配人」や、藩内の諸鉦山から産出される金銀銅などの出納を統理した「御山師」のほか、「御境口出入調役銀取纏支配人」などに任じられているので、それらの文書に見ていただければと思う。

中央図書館明徳館古文書解読研究会

講師 菊池保男



古文書解読研究シリーズ

郷土文学館 石川達三記念室 開室40周年記念事業

記念展示

郷土文学館 石川達三記念室は昭和59年(1984)10月23日に当館内に開室し、令和6年度で40周年を迎えました。これを記念して、また第78回読書週間にも合わせ、10月1日から11月15日まで企画展示を行いました。

石川氏は3歳から7歳までの幼少期を、家族と共に秋田市檜山で過ごしました。昭和10年(1935)に発表した『蒼氓』で第1回芥川賞を受賞。以降『人間の壁』『金環蝕』など多くの作品を発表し、社会派の作家として高く支持され、昭和45年(1970)にはノーベル文学賞の候補にも挙げられていたことが令和3年に公表されました。



本展示

では石川氏の略歴、文学について、解説、記念室開室の経緯をパネルや当時の新聞記事で紹介しました。

また記念室開室後に行われた様々な事業や出来事についても揭示を行いました。

カウンター前では、第1回芥川賞の正賞である懐中時計、戦時中の言論統制についての貴重な資料である新聞連載小説「成瀬南平の行状」のガラや愛用品などを展示しました。

令和7年は『蒼氓』発表から90年の記念の年となります。これからも当室が同氏の文学に触れていたいただく機会となればと願っております。

記念室は当館2階、開館中はいつでも見学が可能です。ぜひお立ち寄りください。



市民文化講演会

「心の中の本棚に、本を増やしていくということ」

令和7年2月22日に、あきた芸術劇場ミルハスとの連携事業として、ブックディレクターとして活躍中の幅允孝氏を講師にお招きし、講演会を開催しました。

申込総数は定員を大きく上回る240名で、100名を抽選、当日は87名にご参加いただきました。



講師は、書店員として働いていた頃から、自分の好きな本を誰かと共有したいと思っていましたが、インターネットショッピングの台頭により、お客さんが来店する機会が減ったと言います。知らない本と出会う喜びをどうすれば伝えられるのか。考えた末にたどり着いたのは「相手が手を伸ばして届く範囲に本を置くこと」と「そこにどんな本が求められているのか、インタビュースること」でした。

現場でのインタビュースを重ねながら、病院や図書館の本棚を構築してきた幅さんは「本は二度と同じようには読めない」と言います。様々なことに時間を割かなければならない現代において、読むための時間をどうやって作るのか、読書に向かうスィッチを入れる場所づくりの大切さについても語る講師のお話を、参加した皆さんはうなずきながら熱心にメモをとっていました。

講演会後、当館に立ち寄った幅さんは、石川達三記念室や特設の展示コーナーを楽しそうに見学していました。

(展示は終了しました)

講演会で紹介した本(抜粋)
『デジタルで読む脳×紙の本で読む脳』
(メアリアン・ウルフノ著 インターシフト)
『でんしゃはうたう』(三宮真由子/ぶん
みねおみつ/え 福音館書店)



明德館ボランティアの会が 野間読書推進賞奨励賞を受賞しました！

令和6年11月、当館を拠点に活動する明德館ボランティアの会が「第54回野間読書推進賞奨励賞」を受賞しました。

野間読書推進賞とは、公益社団法人読書推進運動協議会が設けている賞です。長年、読書推進運動に貢献し、業績をあげられた全国各地の個人・団体を顕彰しています。1971年度から始まり、2024年度の第54回は、1個人と2団体が選ばれました。11月、東京神保町で贈呈式が行われました。

明德館ボランティアの会は、「レモンの会」「おはなしの会」「補修グループ」「創作グループ」「書架整理グループ」と事務局で構成されています。令和6年4月の会員数は、延べ11名です。令和5年度、明德館とともに40周年を迎えました。

会の活動は、多岐にわたります。

「レモンの会」は、活字が読みにくい方への朗読、来館が難しい方にはテレビフォンサービスをしています。「おはなしの会」は、図書館での読み聞かせのほか、



市内の保育園、幼稚園などへの訪問おはなし会を行っています。「創作グループ」は、オリジナルの大型紙芝居を作成し、おはなしの会で使用されています。「書架整理グループ」、「補修グループ」は、それぞれ書架の整理や本の返却、壊れた本の修理を行い、職場体験に訪れた学生たちの指導もしています。活動が図書館内にとどまらず、市民の読書活動を幅広く支えていること、各グループ間の協力などが示唆に富んだ活動であるとして、高く評価されました。



受賞にあたって

昨年、図書館のご推薦によりボランティアの会は「野間読書推進賞奨励賞」を受賞することができました。図書館開館当初から関わりを持った先人に始まり、いまに至るまで多くの仲間たちに受け継がれた奉仕精神の賜物と深く感謝申し上げます。

受賞式にはボランティアの会を代表し、最上事務局長、谷藤事務局、私の3人で臨みました。祝賀会場で、選考委員の野上氏より「私が推しました」の言葉にお礼を述べ、講演社会長とは秋田の熊騒動に会話が弾み、子ども文庫助成事業を展開する伊藤忠記念財団の皆さんや、国際子ども図書館館長、ポプラ社会長等から祝辞を頂きました。

私たちはこの場に招かれた喜びを存分に味わった時間でした。



左から 最上さん、青木さん、谷藤さん

明德館ボランティアの会
総代表 青木美貴子

令和6年度を振り返って

令和6年度は皆さんにとって、どのような1年だったでしょうか。私は館長職2年目でしたが、職員をはじめボランティアの方々を支えられ、とても充実した1年でした。

明德館の今年度のトピックとしては、なんとといっても「明德館ボランティアの会」が、野間読書推進賞奨励賞を受賞したことです。社会に貢献したいという尊いボランティア精神によるこれまでの活動に、心から敬意を表したいと思います。

もう一つのトピックとしては、石川達三記念室が開室40周年を迎えたことです。開室40年にあわせて、寄贈品の特別展示を行うとともに、特別講演会を開催しました。今後も同氏の業績を知る機会の提供に取り組んでいきたいと思えます。

最後に一言。混迷する国際情勢や国内の社会状況が大きく変化する中で、個人それぞれによりよい判断や選択が求められており、教養を深める読書はより一層重要になっていくと思えます。読書の楽しみかたは人それぞれでありますが、より多くの方が本に親しめる環境の提供に、関係者の皆さんと共に引き続き努めて参ります。

館長 佐藤 渉

令和6年度事業

中央図書館明德館、フォンテ文庫、河辺分館で実施した主な事業を紹介します。

資料展示

「中央図書館明德館で所蔵していない雑誌を集めました。」

●4/9～5/30

土崎図書館、新屋図書館、雄和図書館、河辺分館、移動図書館所蔵の雑誌を集めて展示・貸出し。

こどもの読書週間資料展示

「本ではぐくむこどものころ」

●4/16～5/12

乳幼児の発達段階に合わせて、絵本を中心に展示。また、英語の絵本の読み聞かせ「Ehonストーリータイム」の周知を兼ねて、英語の絵本などを展示・貸出し。

「訪問おはなし会－読書週間－」

●4/23～5/10

●10/29～11/8

読書週間中の平日に、子どもたちのいる施設で明德館ボランティアおはなしの会が読み聞かせやエプロンシアターを実施。

石川達三記念室開室40周年記念

「第1回芥川賞正賞
懐中時計とゲラ特別展示」

●6/25～7/7

●10/1～2/2

第1回芥川龍之介賞の正賞である懐中時計と「成瀬南平の行状のゲラ」を展示。

「えいごであそぼう

－からだを動かし、工作しよう－

●6/30

ジェスチャーゲームや工作を用いた親子向け英語講座。

講師：山田佐和子氏



移動図書館イソップ号特別巡回

●「わとわいち」4/20, 10/13

会場：ポートピア河辺駐車場

●「AIUマルシェ」7/7

会場：国際教養大学キャンパス

●「AKITA MAMAMARCHE」11/4, 3/9

会場：秋田県中央地区老人福祉総合エリア

市民が参加するイベントにイソップ号が出動。関連する資料を展示・貸出し。

「夏休みは図書館へ行こう

－みんなの読みたい!知りたいたい!学びたい!を
お手伝いします－

●資料展示 7/17～8/25

夏休みの課題や自由研究の題材となるような図書の展示・貸出し。

●子どもカウンター7/20～30

子ども専用の読書相談窓口を設け、司書が調べものの進め方やおすすめの本などをアドバイス。

「小学生の選書体験」

●7/21, 28(明德館)

●8/5(河辺分館)

新刊図書を中心に自分の学校にあったら役に立つと思う本を選ぶ。



「フォンテ文庫アニバーサリースペシャル 夏のキラキラ工作会」

●8/3

「手作りおもちゃ工房リップル」と一緒に、万華鏡とキューブパズルを制作。



夏休み子ども講座

「切り紙でデザインする
ステンシルマイバッグづくり講座」

●7/31(河辺分館) ●8/7(明德館)

布バッグに自分で切り抜いた紙を配置し、染色してオリジナルのマイバッグを作る。関連資料の展示・貸出し。

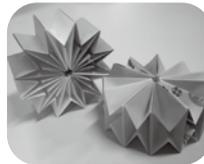
共催：秋田市環境部

河辺分館夏休み特別企画

「図書館クイズラリー」

●8/1～25

図書館の使い方や本の面白さを地域の子どもたちに伝えるクイズラリーを実施。



小学生向けボランティア体験講座

「図書館で本の整理をやってみよう!」

●8/6

書架整理の基本である本の分類や並べ方を学び、実践。また、ボランティア活動者へのインタビューも実施。

共催：市民交流サロン

石川達三記念室開室40周年記念

・読書週間2024企画展示

「郷土文学館

石川達三記念室 開室40周年記念展示」

●10/1～11/15

詳しくは p2 をご覧ください

「フォンテ文庫ウィンターズスペシャル クリスマスおたのしみ会」

●12/14

サンタクロースの玉入れ、クリスマスカード作りなどを実施。

「Ehonストーリータイム」

●日曜日を中心に月2～3回程度開催

秋田大学教育文化学部英語教育コースの学生による、英語での絵本の読み聞かせ。

中央図書館明德館

「子ども広場」

●12/15

明德館ボランティアおはなしの会による、年に一度のスペシャルなおはなし会。人形劇、大型絵本、パネルシアターなどを上演。



「図書館のお仕事たいけん」

●12/22

4年生から6年生までの小学生が、児童コーナーの書架整理、カウンター業務、おすすめ本の展示コーナー作りを体験。



石川達三記念室開室 40周年記念市民文化講演会

「心の中の本棚に、
本を増やしていく
ということ」

●2/22

詳しくは p2 をご覧ください

「雑誌リサイクル」

●3/1(河辺分館)

●3/8(明德館)

保存期間が過ぎた図書館の雑誌を市民の皆さんに無料で提供。